



子育て伴走「だいじょうぶ！」通信 No. 18 ～みんな大切 笑顔あふれる家庭とこども園に～



R7.3.7 やすぎこども園 園長 福島朗博

◆園風景から 職員ワークショップ～次年度に向けて「めざせ！チーム力向上」～



土曜午後に職員で恒例の付箋紙を使ったワークショップを行いました。新たな園の特色づくりで「絵本の取り組み」や「地域とともに」などをテーマに話し合い、安来市立図書館の貸出利用の継続、絵本の題材の保育や食育への展開、園児に本物の魅力を伝えてくれそうな地域の方など、わくわくするアイデアが集まりました。若い職員の感想で「チームで話し合い、みんなの意見が聞けてよかった。これからの保育キャリアに生かしたい」。チーム力アップ！でこれからも頑張っていきます。



◆講演「絵本からのおくりもの ～絵本を読んでみんなが笑顔に～」

島根県立大学おはなしレストランライブラリー 尾崎智子司書



2月15日保育参観日の保護者講演会にはたくさんのご参加をいただき、ありがとうございました。講師の尾崎さんの読み聞かせでは、会場の温かいまなざしが絵本に注がれて、一緒に見ていた赤ちゃんも夢中でした。さらに『いしゃがよい』（さくらせかい作 福音館書店）や『あなたがだいすき』（鈴木まもる作 ポプラ社）のラストの言葉「あなたがいるだけでとってもとってもうれしい」に涙ぐまれる方もおられて、絵本の世界を味わい浸ることのできた時間でした。



尾崎さんがご自身の子育ての中で感じてこられた「読み聞かせの魅力」には、多くの方の共感をよんだのではないのでしょうか。以下にまとめてみました。

○子育てで感じた読み聞かせの魅力

子どもから「絵本よんで！」と言ってきたときは、親に甘えたいキモチ♡と受け止めて、必ず読むようにしました（小4まで続けました）。その理由は・・

- ① 忙しいときもあるけど、読み始めると、こちらの（も）イライラが収まる
- ② 絵本は温かくて優しいことばがほとんどなので、自分の言葉ではないけど自分の言葉のように語れる
- ③ 読書好きの子どもに育った

その息子から中学2年のときに手紙をもらいました。

その内容です。↓

『ぼくにとって本とは、人生で大切なものを教えてくれるものです。生きることの素晴らしさ、また人の感情というものがとても複雑なんだということを教えてもらいました』

またこちらは、講演の後で「余談だけど」と語られた尾崎さんの言葉です。どんな本だったのでしょうか！素敵ですね。

「その後、息子は1冊の本との出会いで『俺、勉強するわ。』と勉強に励むようになりました。よい出会いに恵まれました。」

○メディアと絵本の違い

言葉が切り取られる現代にあって、本はいろんな人（登場人物）の気持ちを学べるよさがあり想像力豊かに育っていける。また YouTube で見る絵本や動画もあるが、電子媒体は記憶に残りにくい。それに対し目を合わせ面と向かい合って読み聞かせをする絵本は子どもの表情や反応がわかるので、理解に合わせたスピードや繰り返し、自分でめくるなど主体





わらべ歌の手遊びも
お勧めですよ♪

的なやりとりができる。そうして乳幼児期の親子のエピソードとしていつまでも心に残っていく。きっと子どもが大きくなったときに素敵なおくりものが待っている。

○大人にも絵本を！

大人が本が好きだと子どもにも伝わっていく。(園内の絵本コーナーに「大人の方にもぜひ」リストを掲示しています。他にもたくさんの絵本も紹介いただきましたのでぜひ参考に！)

○絵本から幼年童話へ ～聴く力は読む力につながる～

読み聞かせを十分味わってきた子どもは聴く力が育ってくる。そうすると長い話が聴けるようになって、『エルマーのぼうけん』『いやいやえん』のような挿し絵の少ない長文の絵本も親しめるようになり、小学校に上がって学習面でも伸びる土台になっていく。

○尾崎さんから質問への回答とメッセージをいただきました

講演の翌日に「講演が楽しかったです！」と図書館に来てくださった親子がおられてとても嬉しく思いました。また「膝の上に座らせる読み聞かせはどうか」という質問をいただきましたのでお答えします。膝にのせて読むと、顔を見なくても、子どもがどんな気持ちでいるのか、心の動きを考えるとします。それに、笑ったりドキドキしたり悲しかったり、くっついていると伝わってきますよね。膝にのせて読んでも、子どもの呼吸に合わせて読むことはできますし、質問にも答えることができます。我が子も膝にのせて読んでおりました。大切なのは親子で一緒にというのが大事で、方法はどんな方法でもよいと思っています。子どもさんが喜ばれる方法が一番です。対面で読んでみたいと思われたら、紙芝居もおすすめです。

メディアとのつきあい方で、『マンガでわかるスマホ脳の恐怖』川島隆太作(金の星社)という小学生向けの本(スマホの使い過ぎが脳の発達を止める研究結果などが説明されている)を紹介しましたが、0から2歳までは、なるべく触れさせない。3歳からは1時間から1時間半がよいと言われています。なかなか難しいかもしれませんが、ここで頑張っておくと、心と心が通い合い、子どもの心の発達にもつながります。絵本の読み聞かせはいいことしかありません。保護者さんにとってもよい時間になりますように。心から願っております。

保護者さんのご感想です。ありがとうございます！

えほん

『あなたがだいすき』の絵本は、最近よく娘と喧嘩することも多く、「大好きだよ」も伝えてはいますが、口頭のみで伝えるより絵と一緒に見ながらだと、より伝わりやすいのかな？と思いました。仲直りのきっかけにもなるといったし気になる絵本もいっぱい知れたので良かったです。

最近子どもが絵本を好きになって毎晩、寝る前に何冊か読んでいます。習慣にしていきたいなと改めて感じました。この寝る前の絵本の時間は、読んでいると子どもの驚いた顔やニコニコの笑顔など、反応が可愛くて親の癒しの時間にもなっています。そして、「寝るよ～」と言うとすんわりゴロンと横になってくれます。これも絵本のパワーでしょうか！？寝るのには時間がかかりますが、素直に横になってくれるだけでも大きいです。(笑)

えほん

子どもが小さい頃は「読んでと頼まれたら必ず読み聞かせを優先してあげよう」と決めていたのに、兄弟ができたり、上の子がおおきくなるにつれて読み聞かせの優先度が下がっていたことに気づけました。改めて子どもと向き合う時間を作ろうと思いました。

えほん

講演の中で「絵本を読んで」と言われた時にはどんなに忙しくても読み聞かせをした、というお話がとても印象的で、子どもとの関わり方について改めて振り返る機会となり、自分も実践しようと思いました。一緒に講演を聞いた主人から「本を買って帰る？」と提案もあり、絵本を数冊購入して帰りました。その後子どもに絵本読もうか？と声をかける姿もあり嬉しく思いました。

実は小さい頃の私は読書があまり好きではなく、絵本を含め本があまり身近になかったように記憶しています。そんなこともあり、子どもには絵本が身近にあった絵本が好きになってくれると良いなという思いから、図書館に足しげく通って絵本を借りたり購入したりしながら読み聞かせをしてみました。今では子どもたちは本当に絵本が大好きになり、毎日「読んで！」「もう1回！」とリクエストしてきます。今では上の子は読んでもらった絵本の内容を自分で解釈して、ページをめくりながら声に出して読む姿も見られるようになりました。私も絵本の魅力に魅了され、図書館や本屋での絵本探しにわくわくが止まりません！まさに、今回の講演のサブタイトル「～絵本を読んでみながら笑顔に～」のように、子どもたちはもちろん、まずは私たち大人も楽しむことが大切だなあと改めて実感しています。